

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2271101145		
法人名	株式会社日本ケアクオリティ		
事業所名	グループホーム くすのき	ユニット名	1階
所在地	静岡県沼津市千本常盤町5-1		
自己評価作成日	平成22年6月15日	評価結果市町村受理日	平成23年2月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <http://www.kaigo-kouhyo-shizuoka.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2271101145&SCD=320>

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	セリオコーポレーション有限会社 福祉第三者評価・調査事業部		
所在地	静岡県静岡市清水区迎山町4-1		
訪問調査日	平成22年6月29日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

事業所周围の環境を活かした外出支援、季節行事の企画・運営、午前中の体操等、閑静な環境の中での落ち着いた生活

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

千本公園の近く、松風が聞かれるほどの静かな環境にありながら商店や公共施設にも近く、狩野川の鯉のぼりや七夕祭り、居ながらにしての花火大会見物等折々の行事を楽しんでおり、また地域社協の協力により公共施設でのコンサートや交流会へ参加する利用者もあり、地域と繋がった暮らしをさりげなく支援している。防災対策においては、地震・火災に加え津波にも対応すべく、抜本的な見直しを図り、隣家へ警報連動を協力していただいたり具体的な目標を定めた訓練により精度を高め利用者の一層の安全に努めている。理念にもある、笑顔を絶やさずに利用者の穏やかな日々の提供に管理者を柱に全職員で励んでいるホームである。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) ○
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) ○
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) ○		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念「私たちは家庭の雰囲気の中で笑顔を絶やさず、ともに笑い、みなで幸せを共有できる空間を創っていきます。」常に目のつく場所へ掲示し理念の共有を行っている。	家庭的雰囲気づくりの実践として笑顔を絶やさぬ管理者・職員の声かけが、利用者同士の心地よい会話のやり取りにつながっている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近所のスーパーや床屋へ出かけ、顔なじみになっている。町内清掃や敬老会に参加している。	日常的には散歩や買い物で地域の方々と顔見知りになり声を掛けてもらったり挨拶を交わしている。小学校や地区の文化祭、祭りや運動会等に参加し、また、老人会の方々が来訪し一緒に楽しむ機会もある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の中で高齢者の問題や介護保険について説明をしている。ボランティアの受入れを行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議で出た内容を全体会議で報告を行っている。改善点がある場合は話し合いを行っている。	地域包括支援センター、民生委員、地区三役、老人会、地域社協の方々が参加し、災害避難時ホームの特殊性への配慮、ボランティアの紹介、近くのデイサービスでの催物案内等が話し合われ、利用者の安全や楽しみに繋がっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	介護保険申請・事故報告書等で市役所へ向かっている。生活保護受給者について連絡を取り合っている。	市内グループホームの連絡協議会には市の協力があり、火災に関する緊急会議等も市の主導により行われている。地域包括支援センターとは利用希望者について連携を図っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	利用者または他の利用者等の生命または身体を保護する為の緊急やむを得ない場合を除き身体拘束その他の利用者の行動を制限する行為は行わないよう心掛けている。施錠は夜間のみで日中はしていない。	「拘束をしなくても良いケア」についてカンファレンス等で話し合っている。ベッドから立ち上がる際の事故を防ぐため、職員がすぐ駆け付けられるよう器具を製作して、利用者の行動を制限しない工夫が見られた。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所による利用者の抱え込みを防止し地域に開かれたサービスをすることを心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	社内研修を実施している。実際に仕事をしている方より話しを伺っている。また必要性について話し合っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時、契約書をもとに説明をしている。不安や疑問点に関しても入居時だけでなく、随時説明をするようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	相談・苦情相談窓口を設けており利用者の意見など個別対応している。場合によっては、家族や市役所を連絡を取り対応している。	家族からの要望や苦情等受け付けは窓口を一本にして管理者が対応している。家族からの要望は利用者の状況を理解してもらったうえで最良の方法の選択に努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員との個別面談の機会を設けている。また必要がある時は随時話しを聞く場を設けている。	管理者は職員の個別面談により、個々の考え方の理解や少数意見の抽出に努めている。また日々の業務のまとめ役を一人の負担とならないよう順番で受け持つシステム作りを検討している。	各ユニット同士、職員の交流が限られており、管理者自ら現場を知ろうとする意図が理解されていないきらいがある。職員とのコミュニケーションを図ることが「現場」と捉えて取り組みを期待したい。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	希望休をとり、休みの希望を尋ね勤務へ反映させている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	経験年数に応じた研修を行っている。また、計画作成者やケアマネの研修も行っている。外部での研修については随時情報提供を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	沼津市のグループホーム連絡協議会に参加し、ネットワークを形成し情報交換を行っている。沼津市にて勉強会があり参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前面接において、本人の要望等を聴取している。来所が可能な場合は、出来るだけ施設に来ていただきホームの様子等を感じ少しでも慣れていただけるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所までに何度かお話を伺い、情報を共有すると共に信頼関係を築いている。電話相談では相手が落ち着いて話が出る様に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時に良く話を聞き、本人と家族が必要としている支援を見極められるよう努力している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の行える事は声掛け・誘導を行い出来るだけご自身で行っていただけるよう働きかけ一緒に行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時、日常の様子を伝え居室での談話される機会を作っている。 毎月近況報告を送り本人の様子を伝えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人を面会に来訪された家族や友人・知人等を受け入れている。 お墓参り等に行ったり、お仏壇を居室に持ち込まれている方もいる。	親戚や今まで住んでいた家の近隣の方がたずねてくれる。また、利用者あてに荷物が送られた場合には家族の了解を得て手紙を書くなど馴染みの方々との関係継続を支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	テーブルの席を検討し、利用者同士の関係を考え必要がある場合は検討している。 口げんかがある時には職員が間に入り対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後、家族や転居先から情報を求められた際は随時対応をしている。 継続的な関わりは持っていない。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人との話しの中で望まれることを確認している。本人から意志や希望を伝えられない方については表情や行動から汲み取るようにしている。	思いを主張できない利用者に対しては、これまでに得た情報や観察により思いを察するよう努めている。ボランティアの力を借りて利用者の興味を掘り起こしたこともあり、新しい発見により利用者のやる気を引き出している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居の段階で各スタッフ情報収集できるよう記録に目を通し、随時、家族や本人から話を伺うようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々入居者の方の変化に留意し、出来る部分が続けていただけるよう、観察あるいはスタッフ間で情報を共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族や各スタッフより意見を集め、月1回のユニット会議にて、より現在の本人の支援が出来る様なプラン作り見直しをしている。	毎月のユニットカンファレンスで職員の気づきや家族の意見を話し合い、それを基に3ヶ月毎にモニタリングを実施している。家族は介護計画について説明を受け一緒に話し合っている。	介護計画作成者の交代により、計画見直しがまだ円滑でない部分もあるとのことであった。計画作成のための予定表づくり等により期間を空けずにモニタリングを計画に活かせることを望みたい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	出来事についてはそれぞれ見出しをつけて、変化をケアやケアプランに活かせるように記録の仕方に留意している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ケアのあり方について会議で話し合いを行い、より良いサービス提供についてのアイデアを出し合うようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	消防本部の協力を得ての防災訓練、沼津市介護相談員の受入れを行っている。地域のボランティアの受入れや、町内活動(運動会・清掃等)に参加・見学を行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時かかりつけ医の意向について家族・本人に確認を行っている。週1回のホームDrの往診があるが、主治医の違う場合は家族もしくは職員同行にて受診を行う。急変・体調不良者がいる場合電話連絡にてホームDrの指示を受けられる。	毎週往診してくれる協力医を殆どの利用者が主治医としているが、従来からのかかりつけ医を受診する利用者もあり訪問看護と併せ納得のいく適切な医療が受けられるよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師が週1回来られている。1週間の様子を伝え状態把握をしていただき、適切な看護やアドバイスにて支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には病院のケースワーカーや担当者・看護師等と情報交換や相談を行い早期に退院出来る様につとめている。近くの総合病院と連携をしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に終末期のあり方やホームとしての指針を伝えている。家族へ事前に、重度化になった際の医療対応に関する方針を伺っている。	家族の協力、医師との連携、職員全員の理解等が合致した上で可能となるが、現在看取りの指針を作成し、急変時における家族の意向確認の同意書をいただいている。利用者の状況の変化について家族と話し合ったことはカンファレンスで職員と共有している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルに添った対応を行っている。普通救命講習を職員全体で受講した。会議の中で対応について話し合う機会を設けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練・消化訓練を行っている。防災委員を設置し、火災・地震・水害等の対応マニュアルを作成している。火災時、近隣住民の協力体制を築けている。	抜本的な見直しを図り様々な場合に対応できるよう具体策を講じている。隣家の庭を避難場所にお願ひし、大家さんには警報器を連結し有事に役割を分担、また訓練にも参加し改善点を指摘していただくなど協力体制が築かれている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーの配慮を行っている。名前を呼ぶときは、「～さん」とさん付けで呼んでいる。個人情報のファイルは直接目が届かないようにしている。	この対応は自分だったらどう思うか？他人行儀ではないか？等一人ひとりの尊重について折々の会議で話し合っ意識を高めている。失禁の対応や着替え等他の視線への配慮もされている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常の会話の中で、希望や望みを聞いたり、行動を見ながら支援をしている。買い物の際には自分で選んでいただいている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人のペースで出来るだけ生活していただいている。本人の要望や職員の働きかけにより、買い物やドライブ等に出かけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の行きたいときに近所の理容・美容院へ職員同行し行っている。定期的にホームに床屋さんが出張していただいている。化粧ボランティアによるお化粧も楽しまれている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食べたいものや好き嫌い好みに合わせた献立作りを心掛けている。誕生日に食べたいものを伺っている。片付けは出来る方は本人に行ってもらっている。	冷蔵庫の中身と利用者のリクエストを勘案しユニット毎の献立が立てられている。箸が進まない利用者におにぎりや対応する配慮も見られた。移動販売のパンを選んで購入し、食卓に乗せるのも利用者の楽しみである。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取量・水分量を毎食チェックし把握を行っている。水分をこまめに提供する事で水分量の確保に努めている。水分のみで摂取が難しい方にはゼリーなどを提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	夜間技師の方はポリドントを使用し、自分で出来る方は歯磨きの声掛けをしている。毎食後、うがい薬にてうがいをしていただいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握し、必要な方には声掛け・誘導を行っている。歩行可能な方には布パンツやリハビリパンツを使用し対応を行っている。	現在排せつが自立している利用者には出来るだけ現状が維持できるよう個々に応じて誘導や見守りに努めており、失禁の場合でも安易にパッド使用とせずトイレでの排せつに向けて支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝食にヨーグルトを提供している。水分摂取をこまめにいただいている。昼食前に運動等を行う事により身体を動かしている。必要な方には下剤にて調整を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	1週間に2回以上入浴が出来る様心掛けています。入浴剤を使用する事により、入浴が楽しみの一つになるように工夫をしています。	週二回の入浴を基本としており、車いすで浴槽に入れない利用者もシャワー浴と足浴で心地よさを味わって貰えるよう努めている。一緒に歌ったり、昔の話を聞いたり、また入浴拒否には会話を工夫して誘うなど入浴を楽しめるように図っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々のペースで休まれている。冷暖房の温度調節を行ったり、寝具の洗濯や日干し、夜間の巡回等を行い、本人の安眠を支援している。夜間不眠のある方は必要に応じ睡眠剤を処方されている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方された薬を個人別にファイルに綴り、薬の変更・新規処方が合った場合、申し送りノートに用法用量を記載している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	買い物やドライブ等に出かけたり、外食やお茶に行かれています。昼食前に行っている体操や歌は利用者の楽しみになっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	ドライブや近所の散歩に出かけている。季節に合わせた場所への外出支援を行なっている。本人の希望により、ご家族と連絡をとり食事や通院等の協力を得ている。	周辺は車の往来も少なく、希望者は散歩や畑づくりを職員と楽しんでいる。行事外出や買い物等意向を反映した外出支援、地域社協や家族の協力を仰ぎ地域との交流や外食などにより希望実現に努めている。ドライブがてら入院中の利用者を見舞い、ホームでの生活を約す場面も見られた。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人管理が難しい方については、家族より預かり金としてお金を預かり対応をしている。外出時や買い物、移動パン屋での購入時に預かり金を使用し本人のお金で買い物を楽しんでいただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人からの希望があった際、対応し電話を掛けている。携帯電話を持っている利用者もあり、家族と連絡を取り合っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節ごとに飾り付けを行っている。共用空間も明るく広々としている。温度調節に気を使い不快な状態にならないように配慮している。	玄関を入ると大きなクスの木や七福神の置物が出迎えてくれる。開口部を広く取った居間は明るく梅雨の合間の晴天には窓を開け各居室との通風が図られ、利用者の願い事が籠められた七夕様が飾られていた。浴室やトイレ・洗面台等清潔が保たれている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う利用者同士を同じテーブルにしたり、席の配置をその都度考えている。テレビやテーブルの配置も考えて設置している。ソファや外のベンチで過ごされる方もいる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に家族と配置を考え出来るだけ本人の馴染みのものを持ってきていただいている。仏壇やテレビ等も自由に持ち込まれている。	和箆箆やテレビなど馴染みの品が持ち込まれた居室やこれまでの習慣で畳を敷いた部屋もある。気に入った広告を職員に貼ってもらい広告から元気を吸収している利用者もある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室内部は馴染みのものを設置する事により、自室を認識していただけるようにしている。トイレや浴室などはわかりやすいように名前を記入し、方向等も記載されている。		

## 1 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2271101145		
法人名	株式会社日本ケアクオリティ		
事業所名	グループホーム くすのき	ユニット名	2階
所在地	静岡県沼津市千本常盤町5-1		
自己評価作成日	平成22年6月15日	評価結果市町村受理日	平成23年2月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <http://www.kaigo-kouhyo-shizuoka.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2271101145&SCD=320>

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	セリオコーポレーション有限会社 福祉第三者評価・調査事業部		
所在地	静岡県静岡市清水区迎山町4-1		
訪問調査日	平成22年6月29日		

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

事業所周围の環境を活かした外出支援、季節行事の企画・運営、閑静な環境の中での落ち着いた生活

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

※複数ユニットの外部評価結果は1ユニット目の評価表に記入されています。

### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念「私たちは家庭の雰囲気の中で笑顔を絶やさず、ともに笑い、みなで幸せを共有できる空間を創っていきます。」常に目のつく場所へ掲示し理念の共有を行っている。	※複数ユニットの外部評価結果は1ユニット目の評価表に記入されています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近所のスーパーや床屋へ出かけ、顔なじみになっている。町内清掃や敬老会に参加している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の中で高齢者の問題や介護保険について説明をしている。ボランティアの受入れを行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議で出た内容を全体会議で報告を行っている。改善点がある場合は話し合いを行っている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護保険申請・事故報告書等で市役所へ向かっている。 生活保護受給者について連絡を取り合っている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	利用者または他の利用者等の生命または身体を保護する為の緊急やむを得ない場合を除き身体拘束その他の利用者の行動を制限する行為は行わないよう心掛けている。施錠は夜間のみで日中はしていない。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所による利用者の抱え込みを防止し地域に開かれたサービスをすることを心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	社内研修を実施している。 実際に仕事をしている方より話を伺っている。また必要性について話し合っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時、契約書をもとに説明をしている。不安や疑問点に関しても入居時だけでなく、随時説明をするようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	相談・苦情相談窓口を設けており利用者の意見など個別対応している。場合によっては、家族や市役所を連絡を取り対応している。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員との個別面談の機会を設けている。また必要がある時は随時話しを聞く場を設けている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	希望休をとり、休みの希望を尋ね勤務へ反映させている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	経験年数に応じた研修を行っている。また、計画作成者やケアマネの研修も行っている。外部での研修については随時情報提供を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	沼津市のグループホーム連絡協議会に参加し、ネットワークを形成し情報交換を行っている。沼津市にて勉強会があり参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前面接において、本人の要望等を聴取している。来所が可能な場合は、出来るだけ施設に来ていただきホームの様子等を感じ少しでも慣れていただけるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所までに何度かお話を伺い、情報を共有すると共に信頼関係を築いている。電話相談では相手が落ち着いて話ができる様に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時に良く話を聞き、本人と家族が必要としている支援を見極められるよう努力している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	可能な限り一緒に過ごしながら、喜怒哀楽を共にするよう心掛けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月、近況報告として家族へ手紙を送っている。来訪時には、ご家族からの要望も伺っている。必要時には電話連絡を行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族や馴染みの方がホームへ来訪して下さり談話等楽しまれている。近所の利用者は家の近くを職員と散歩する事もある。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	仲の良い利用者は席を近づけたり、職員が間に入り上手く関係を取り持っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後、家族や転居先から情報を求められた際は随時対応をしている。 継続的な関わりは持っていない。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人との話しの中で望まれることを確認している。本人から意志や希望を伝えられない方については表情や行動から汲み取るようにしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居の段階で各スタッフ情報収集できるように記録に目を通し、随時、家族や本人から話を伺うようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々入居者の方の変化に留意し、出来る部分を続けていただけるよう、観察あるいはスタッフ間で情報を共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族や各スタッフより意見を集め、月1回のユニット会議にて、より現在の本人の支援が出来る様なプラン作り見直しをしている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	出来事についてはそれぞれ見出しをつけて、変化をケアやケアプランに活かせるように記録の仕方に留意している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ケアのあり方について会議で話し合いを行い、より良いサービス提供についてのアイデアを出し合うようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	消防本部の協力を得ての防災訓練、沼津市介護相談員の受入れを行っている。地域のボランティアの受入れや、町内活動(運動会・清掃等)に参加・見学を行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時かかりつけ医の意向について家族・本人に確認を行っている。週1回のホームDrの往診があるが、主治医の違う場合は家族もしくは職員同行にて受診を行う。急変・体調不良者がいる場合電話連絡にてホームDrの指示を受けられる。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師が週1回来られている。1週間の様子を伝え状態把握をしていただき、適切な看護やアドバイスにて支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には病院のケースワーカーや担当者・看護師等と情報交換や相談を行い早期に退院出来る様にとめている。 近くの総合病院と連携をしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に終末期のあり方やホームとしての指針を伝えている。家族へ事前に、重度化になった際の医療対応に関する方針を伺っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルに添った対応を行っている。普通救命講習を職員全体で受講した。会議の中で対応について話し合う機会を設けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練・消火訓練を行っている。防災委員を設置し、火災・地震・水害等の対応マニュアルを作成している。火災時、近隣住民の協力体制を築けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーの配慮を行っている。 失禁時にはそっと声をかけ居室やトイレへ誘導し対応している。 記録へ本人以外の名前を記載するときはイニシャルを使用している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定を促すような声掛けを心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事や入浴など個人のペースや希望・状態に合わせて支援を行なっている。 職員の声掛けにて動いている時もある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	日々、清潔なものを着用されている。床屋に行ったり、訪問で床屋に来所していただき散髪を行っている。上手く食事が取れない方は、服が汚れないようエプロンを着用している。化粧ボランティアによる化粧教室を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	出来るだけ食事を一緒に食べるようにしている。出来る方には食事後の片づけを手伝っていただいている。 準備や調理は職員のみで行う事が多い。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養のバランスを考え献立を考えている。お粥やゼリーを提供する事により水分を補うようにしている。状態に合わせた食事形態にて対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアは夕食後のみで毎食後は実施していない。 義歯使用者は毎日入れ歯洗浄を行っている。週に一度、歯ブラシの消毒を行っている。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりに合わせてトイレ誘導を行い、見守りが必要な方は見守っている。尿失禁等が見られてもすぐにパット等を使用せず排泄パターンを見て声掛けや厚手の布パンツ等を試すようにしている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便状況を常に把握するようにしている。毎日、ヨーグルトか牛乳を摂取していただいている。水分をこまめに摂取して頂くが困難な方にはゼリー等を提供している。自力での排便が困難な方にはDrより下剤処方により調整している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	拒否の場合は無理強いしないようにしているが、最低週2回入浴が出来るよう支援している。入浴剤使用したりゆず湯にする事により入浴に楽しみを持たせている。シャワー浴の方は足浴も同時に行っている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中傾眠している方や休息が必要な方は様子を見て声掛けしベッドで休んでいただいている。就寝時間を設けていないため、一人ひとりのペースに合わせている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬連絡ノートを使用し薬の変更や中止などについて情報を共有している。錠剤が飲み込みにくい方について、工夫をしたり薬局と相談し粉状にて服薬している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物を干したり畳んだりしていただくことにより役割を持っていただいている。外出や散歩等を行い気分転換を図っている。施設内行事や地域行事に参加し楽しんでいる。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	声掛けを行い本人の希望があれば散歩や買い物等の支援をしている。可能な家族には外出支援の協力をさせていただき散歩等に出かけられている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を所持している方には買い物時、支払いをそばで見守りできない時は介助している。所時や支払いが難しい方には、好きなものを選んでいただき職員が支払うよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の希望があれば電話を掛けていただくようにしている。 利用者宛に贈り物などが届いた際には家族の了承を得て手紙を書くよう援助している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感が出るように壁を装飾している。花や植物を置いている。トイレには分かりやすい様に表示している。常に清潔を心掛けている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファーにて気の合った利用者同士で座っていただいたり、眠そうな方がいた時はソファーで傾眠出来る様にしている。 席の配置を考えている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの家具を居室に置いていただいている。畳を希望される方には畳を入れていただき以前の生活が継続出来る様努めている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部が手すり設置や段差が無い為、安全な生活を送る事が出来る作りになっている。 トイレなどを表示しておくことでご自身で向かうことが出来るようになっている。		